

## 第1回 北広島市外部評価委員会 会議録

日時：平成21年6月17日（水）  
午後1時30分～2時42分  
会場：中央会館（1階）集会室

■出席委員 麻生敏子 天羽 浩 小松直之 澤井将美 村川 亘  
■事務局 企画財政部 高橋部長  
改革推進課 高秀課長 西澤主査 川口主査  
財政課 中屋課長 桜井主査 富田主査

1 開会 事務局の司会進行により開会。

2 委嘱書の交付 上野市長、各委員へ委嘱書を交付。

### 3 市長あいさつ（要旨）

皆様には外部評価委員を快くお引き受けいただき、感謝いたします。本年2月には、委員の皆様には行政とは異なる視点から事務事業と補助金など合計27件の評価を報告書にまとめていただきました。その結果を踏まえながら事務事業や補助金の見直しに反映させているところです。行財政状況は引き続き厳しい状況が続いていますので、今年度も無駄を省きながら最大の効果をあげるために皆様の評価をいただき、市政運営にあたっていきたくと考えています。また、昨年度の評価を踏まえて評価制度そのものを整えてまいります。どうぞよろしく申し上げます。（この後、市長退席。）

### 4 委員・事務局紹介

### 5 外部評価委員会設置要綱の確認

### 6 委員長の選出

事務局、選出方法を問う。「事務局一任」の声あり。事務局から村川委員を委員長として提案し、全員の了承を得た。（次第7「議事」以降、村川委員長により司会進行。）

### 7 議事

(1) 副委員長の指名について 村川委員長、麻生委員を副委員長に指名。

(2) 外部評価の実施について 事務局、資料等に基づき説明。

ア 政策評価

イ 外部評価

ウ 昨年度の外部評価委員会意見の検討について

評価対象事業等の現地調査や補助団体側のヒアリングについては、評価対象の事業等選定後、対象となった事業等の内容と日程調整等を考慮して判断することとした。

### (3) 外部評価に係る対象事業及び補助金の選定について

事務事業については一定の基準で絞り込んだ中から各委員の希望が多かった20件を基本とし、事業費の額、委員の希望事業、各部署のバランス等を考慮して、事務局で整理し、次回決定することとした。また、補助金についても、希望が多かった12件を基本とし、委員の希望の1件を加え13件を事務局で整理し、次回決定することとした。

### (4) 今後の予定

会議日程の調整：次回については、6月30日（水）15：00か7月1日（水）午前中とし、第3回目については、7月15日（水）か7月16日（木）の午前中のいずれかにし、会議室の関係で事務局で決めて、連絡をすることとした。

### (5) その他

8 閉 会 （14：42）

## 主な質疑応答・意見など

- (委員長) 昨年よりスタートが遅れており、予算に反映させるためには、期間があまりない中で、現地調査とか補助団体とのヒアリングの時間がとれるのか。
- (事務局) 昨年より1ヶ月遅れているので、7月・8月に月2回程度の開催をしていただければ、昨年並みのペースに戻る。
- (委員 D) 対象事業が現地調査を必要とする事業なのか、その事業を評価する上で現地調査をする必要があるものについては調査を実施するということではいかがか。
- (委員長) それでは、評価対象事業を選定してから協議する。
- (委員 D) 昨年、類似事業をグルーピングしたうえで、選定したほうが評価しやすいと話をしたが、その作業はしたのか。
- (事務局) 評価対象事業に類似事業があれば、一覧表や参考資料を作成し、提示しようと考えていた。
- (委員 D) 事業を15～20位に分けて、その中に全事業をはめ込み、各委員に見えるように選定をしていく。次年度以降はそのような取り組みをしていただきたい。
- (事務局) 全事業をグルーピングにして示すと膨大な量になり、グルーピングの分け方として、どれを選定するかという問題もあり、今年度については、選択した事業の関連する事業を提示して評価していただきたい。
- (委員長) 選択した事業と一緒に添付していただき、説明していただければいいと思います。必要な都度準備していただきたい。
- (委員長) 5票と4票の9件については評価対象とすることでもいいですか。(全員承認)
- (委員長) 残りの6件ですが、是非評価対象としてほしいという事業があれば、優先的に選定しても良いと思いますので、出していただきたい。
- (委員 C) コミュニティ FM 事業を希望します。
- (委員 D) 体育施設の管理事業、住民プールと総合体育館・緑葉公園の管理事業を2つお願いしたい。
- (委員長) 他になければ、事務局に金額の大きいもの、特定の部署に偏らないように、皆さんから希望のあった事業等を考慮して整理していただき、次回の委員会に提案していただきたい。
- (事務局) 残り3件を含めまして、次回に提案させていただきます。
- (委員長) 補助金については、12件ありますので、逆に2件減らすことになりますね。これもある程度整理していただいて、10件を次回に提案していただくこととします。
- (委員 B) 先程からのグルーピングは、内部で簡単に分けられるものなのですか。
- (委員 D) 補助金についてはグルーピングするのは難しいと思います。
- (委員 B) 補助金は、条例や規則に基づいて決められているものだと思いますので、例え

ば、1つの条例に基づく補助金がいくつもあり、それが1本になるとかいうことですか。

(事務局) 補助金は一一つ条例、規則や要綱等に基づいて定められ、別になります。

(委員長) 4票までで、12件ありますが、3票の中からも是非この補助金も含めて選定してほしいというのがあれば教えていただきたい。

(委員 B) バランスでいいますと、幼稚園と市の排雪補助金が金額的に大きいので、この2つを入れるべきだと思います。

(委員長) それでは、この3票の市道排雪補助金も入れたうえで10件にして提案していただくことでよいですね。(全員了承)

(委員長) 先程の現地調査と補助団体のヒアリングについては、具体的に事業等が選定された時に協議することとします。

(委員長) 外部評価委員会の評価に対して議会の中で質疑があり、どこのどの部分を検討するのか、具体的な評価まで入っていない、といいますと評価の表現の仕方ですが、どこまで踏み込んで書けばよいのか、

(事務局) 3月の第1回定例会の予算特別委員会で、外部評価委員会の評価の活用について質問があり、平成20年度から評価の結果を担当部局や財政側に通知していると答弁。その時に方針的な部分は、従来のような評価の表現になりますが、見直しや拡大となった場合で、数量的・具体的に提示できるものについては書きますと説明してきたところです。次回の委員会には、報告書の表現の仕方を検討していただきたい。

(事務局) 議会では、外部評価委員会が質を上げるために、市がどのような努力をしたのか、市の努力が足りないのではないかと指摘を受けた。もう一つは、外部評価を市の事務事業にどう反映されているのか、実効性の担保の部分の議論があり、できれば、表現の中で見直しですとかの場合に、もう少し踏み込んで具体的に表現していただければいいのではないかと思います。

(委員長) いずれにしても、書き方の工夫は当然する必要があると思います。

(委員 D) 事業によっては具体的に書く必要も出てくるでしょう。

(委員長) 見直しでも、縮小に向けての見直しとか、拡大の方向に向けての見直しですとか、そういうときの表現の仕方、ケース・バイ・ケースで考えていく。

(事務局) 担当部局とのヒアリング終了後の協議で出された意見等についても、事務局から原課に対して、この部分も含めて検討してくださいと、補足資料を作成し提示するように考えている。

(委員長) 昨年の報告書にも意見は記載されていますが、そのような意見を評価の中に行っても表現するようにすればよいと思います。